

全体を通して(特に良いと思われる点)	
利便性のよい街中のグループホームでビル内には介護付有料老人ホームもある。ホームでは、利用者個々が充実した生活を送れるような支援に努めておられ、特に、外出の機会を多く作っており、散歩の途中に喫茶店でお茶を飲んだり、少し足を延ばして、坊ちゃん劇場で演劇なども楽しまれている。また、食事時には、今日のメニューについて利用者に感想を聞き、味付けなどの意見を採り入れたり、料理の本を参考にされ栄養面にも配慮し、摂取カロリーの計算を月に数回行い、個々の栄養状況の把握にも努めておられた。できるだけ身体を動かしていただけるよう、午前中に体操の時間を設けておられる。また、日中、習字や手芸などを行うなど楽しく過ごせるように取り組まれている。今後、散歩時に、町内のゴミ拾いをするなども計画されており、そのような機会を活かしてさらに、地域とのかかわりを深めていかれることが期待される。	
分野	特記事項(特に改善を要すると思われる点)
運営理念	ホームの理念は掲げておられるが、日常生活の中で理念について話すような機会は少なめとなっている。さらに、管理者は、ホームの目指すことについて語り、牽引していかれることが望まれる。
生活空間づくり	職員は笑顔で楽しくコミュニケーションをされていたが、時に職員の声の大きさとテレビの音が混じって聞こえてくることもあった。居室で休まれている方や体調の優れないような方にとっては、どのように聞こえているだろうか。利用者の立場に立ってこの機会に職員で意見を出し合ってみてはどうだろうか。
ケアサービス	ご本人ができることなどについて、職員が行ってしまうような場面が見受けられた。さらに、ご本人主体の生活を支援するという点からも、個々の状態の把握や言葉かけなどの工夫についてすべての職員で話し合い、積極的に取り組まれることが望まれる。 外出先を決めたり、レクリエーションの参加についても無理強いすることなく行なわれているが、生活の中で選んだり、決めたりするような機会は少なめである。さらに、一人ひとりの生活の自信や活力につなげるためにも利用者個々が決めたり選んだりするような場面を増やしていかれてほしい。
運営体制	今後、ホームでは、町内のごみ拾いを行なうことなども計画中であり、そのようなことをきっかけに近所の方達とかかわりをさらに深めていかれることが期待される。 「花みずき通信」を作成し毎月ご本人の身体状態の報告や行事の様子を伝えているが、ホーム全体の取り組みやご家族の知りたい情報など、ご家族にとって、楽しみになるような情報提供へのさらなる取組みなども期待される。
その他	消防署の協力を得て消防訓練を行なっている。さらに、今後、地域との協力体制の確保や夜間時の対応、避難場所の確認など災害時の対応についてホーム全体で検討されてはどうだろうか。

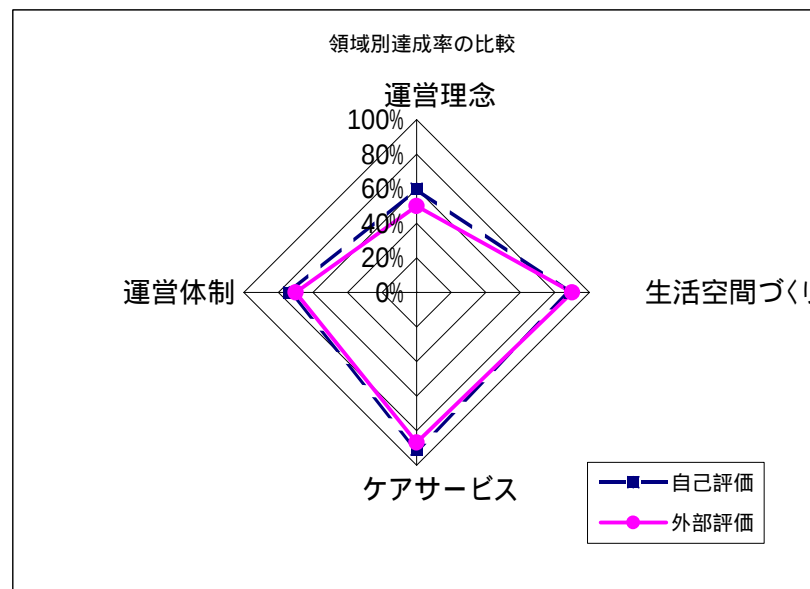
分野・領域	項目数	「できている」項目数
運営理念		
運営理念	4項目	2
生活空間づくり		
家庭的な生活環境づくり	4項目	4
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	5
ケアサービス		
ケアマネジメント	7項目	5
介護の基本の実行	8項目	6
日常生活行為の支援	10項目	10
生活支援	2項目	2
医療・健康支援	9項目	9
地域生活	1項目	1
家族との交流支援	1項目	0
運営体制		
内部の運営体制	11項目	10
情報・相談・苦情	2項目	1
ホームと家族との交流	3項目	1
ホームと地域との交流	4項目	2
その他		
火災・地震等の災害への対応	1項目	0

自己評価・外部評価の達成率の比較

分野・領域	自己評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	5	60%
生活空間づくり	13	88%
ケアサービス	77	91%
運営体制	40	74%
合計	135	84%

分野・領域	外部評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	4	50%
生活空間づくり	10	90%
ケアサービス	38	87%
運営体制	20	70%
合計	72	81%

自己評価作成日	平成18年9月11日
訪問調査日	平成18年9月16日
評価結果確定日	平成18年9月30日



レーダーチャート・表の見方

* 自己評価結果・自己評価作成は、各ユニット毎に行ないます。その結果、ホームで「できている」と回答した数を集計し、事業所での達成率として表しています。

* 外部評価結果・外部評価は、ユニットすべてを調査しますが、評価結果は、事業所単位で表しています。

* 自己評価・外部評価の達成率の比較・自己評価が外部評価の達成率に比べて低くなっている場合があります。これは事業者自ら提供しているサービスに対し「まだ十分でない」「もっと改善の余地があるのではないか」という質の向上に向けた取り組みの姿勢と捉えることができます。

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己					
	運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1 ○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。		○		ホームの理念は掲げておられるが、日常生活の中で理念について話すような機会は少なめとなっている。	さらに、管理者は、ホームの目指すことについて話すような機会を日常的に作り、牽引していかれることが望まれる。
2	3 ○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、利用者及びその家族や代理人等(以下「家族等」という。)に分かりやすく説明している。	○			理念は、エレベーター前の廊下などに掲示されており、入居契約時、利用者ご家族などにも説明されている。	
3	4 ○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、利用者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			契約書の中に権利・義務について明記されており、利用案内時や入居時に説明し同意を得ている。	ご本人がホームでどのように暮せるのかという暮らしの中の権利について利用する側の方達にとっても分かりやすい工夫を重ねていけることが期待される。
	2. 運営理念の啓発					
4	5 ○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)		○		現在は、地域に対する啓発や広報への取り組みは、特になされていない。	今後の運営推進会議の機会を活かし、地域とのかかわりの中でホームの意義や役割を伝えていけるような取り組みが期待される。
運営理念 4項目中 計		2	2	0		
	生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 ○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、利用者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○			介護付有料老人ホームと共有の玄関となっており、受付けの方もおり、草花なども飾られ親しみのある雰囲気作りをされていた。	ホームでは、建物入り口あたりの雰囲気作りなどについても改善の余地があると感じられておられる。さらにホームを訪れる方達が親しみやすいような雰囲気作りへの工夫が期待される。
6	7 ○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			共用空間は、広さに限りはあるが、季節感のある手作りの装飾品が飾られ色合いなどもやわらかさがあり、アットホームな雰囲気作りをされている。	
7	8 ○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、利用者が一人になったり気のあった利用者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			廊下の長いすに座って休まれている方や居間のテーブル椅子、マッサージ機などもありそれぞれ気に入った場所で過ごされていた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
8	9	○利用者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			居室には、タンスや日めくりのカレンダー、テレビや人形など個々の馴染みのものや好きなものが持ち込まれており、個性がうかがえるしつらえとなっていた。	さらに、居室で長時間過ごされる方などについても居室の環境作りに工夫を重ねていかれてほしい。また、日常的に居室のドアの開放されていることなどについてもプライバシーという点から話し合われてみてほしい。
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 利用者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			ホーム内にはエレベーターが設置されており、浴室、廊下、トイレなど要所には手すりが設置されるなど利用者の身体機能が低下しても、ホームでできるだけ自立した生活が送れるよう設備に配慮がなされている。	ホームでは、利用者の自立に向けた支援を行うことを理念にも掲げておられる。今後も利用者の状態に合わせてホームでできるだけ自身の持てる力を発揮しながら生活できるよう設備や工夫を重ねていかれてほしい。
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、利用者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			居室には、ネームプレートが利用者の目線に合わせて掛けられており、男性と女性で色を変えておられた。また、浴室にはのれんが掛けられていた。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 利用者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			職員は、笑顔で楽しくコミュニケーションされていたが、時に職員の声の大きさとテレビの音が混じって聞こえてくるなど配慮が求められる場面なども見受けられた。また、廊下の先や居間、トイレなど場所によって室温に差があるように感じられた。	居室で休まれている方や体調の優れないような方にとっては、どのように聞こえているだろうか。利用者の立場に立って、この機会に、意見を出し合ってみてはどうだろうか。
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			調査訪問時、気持ちのよい風が通り、空気のだよみは感じられなかった。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			居間や食卓のテーブル上に時計が置かれてあった。また、カレンダーは手作りされたものや今日の日にちを記されたものがあり、廊下には、レクリエーションの予定なども掲示されていた。季節感のあるものがふんだんに飾られている。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			掃除道具や裁縫道具、書道用品など利用者の活動意欲を触発できるような物品が用意され提供されている。	さらに、利用者が生活の中で「やってみよう」と自ら思えるような環境作りなどについても工夫が期待される。
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			5	1	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立て、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			アセスメントに基づき介護計画を作成されている。	センター方式の様式を用いた介護計画の作成に取り組まれている。今後も、さらに利用者主体で特徴を活かした計画の作成が期待される。
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を取り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			職員のミーティングなどで、日々の気づきや意見を出し合い、介護計画に反映するようになっている。	
17	22	○介護計画への利用者・家族等の意見の反映 介護計画を、利用者や家族等とも相談しながら作成している。		○		介護計画の作成については、ご本人との日々のかかわりの中から探り職員で話し合っているが、意思の表出がむづかしいような方やご家族などの意見を聴くような機会は少ない。	介護計画の作成に当たっては、ホームに安心して任せられておられるようなご家族もあるだろうが、介護計画の目的や家族の声の大切さを投げかけ、意見を出していただけるよう働きかけを工夫されてみてほしい。
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			定期的に介護計画の見直しが行われており、状態の変化があった場合には随時の見直しを行っている。	さらに、利用者個々の状態に合わせたケアを行なうためにも、見直し時の評価の話し合いの充実が望まれる。さらに、ご家族への説明なども細やかに行われたい。
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。		○		利用者の状態や行動が個別に記録されているが、個々の特徴や状態、支援などの具体は分かりにくい。	さらに、日々の記録から介護計画に反映できるような仕組み作りなども期待される。
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にし、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			申し送りノートを用いて情報伝達を行っておられ、職員が目を通し確認のサインをするようになっている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			月に1回、職員全員参加でカンファレンスが行われており、活発な意見交換がされている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			5	2	0		

項目番号	項 目		できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	外部	自己					
						2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行	
22	27	○利用者一人ひとりの尊重 職員は、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(利用者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			職員は、利用者個々の性格や特徴などを把握され、希望をうかがいながら笑顔で一人ひとりに合わせ対応されていた。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気と接している。	○			職員は、笑顔で利用者と接しておられ、声かけや態度も穏やかでやさしい雰囲気であった。	
24	30	○利用者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 利用者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			先生をされていた方に、漢字の読み方を教わるなど過去の経験を活かしながら会話をされていた。また、そのことをきっかけに他の利用者などにも配慮しながら楽しい雰囲気作りをされていた。	
25	32	○利用者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			職員は、起床時間や食事の時間など、できるだけご本人のペースを守ることができるよう支えておられた。	
26	33	○利用者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、利用者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			外出先を決めたり、レクリエーションの参加についても無理強いすることなく行なわれているが、生活の中で選んだり、決めたりするような機会は少なめである。	さらに、利用者個々が決めたり選んだりするような場面を意図的に作り、一人ひとりの生活の自信や活力につなげるような取り組みが期待される。
27	35	○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			自立支援に努めておられるが、ご本人ができることなどについて、職員が行ってしまうような場面が見受けられた。	さらに、ご本人主体の生活の支援という点から個々の状態の把握や言葉かけなどの工夫についてもすべての職員で話し合われ積極的に取り組まれることが望まれる。
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			職員は、身体拘束について正しく認識されており、日々実践されている。	
29	38	○鍵をかけない工夫 利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族等に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			ホーム出入り口であるエレベーターをご自分で使用される方もおられる。	
介護の基本の実行 8項目中 計			6	2	0		

項目番号	外部	自己	項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
			(2) 日常生活行為の支援 1) 食事					
30		43	○ 馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、利用者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			茶碗や湯呑み、箸や箸置きなどはご自身のものを使用されており、その他の食器もあたたかみのある陶器のものが使用されていた。	
31		44	○ 利用者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			健康状態に合わせ、おかゆや食物を小さく食べやすくされている。また盛り付けは彩りもよくおいしように工夫されていた。	
32		45	○ 個別の栄養摂取状況の把握 利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			職員が交代で献立を立てておられる。作成時には、栄養面についても配慮されており、月に数回、カロリー計算されており目安とされており、おおよその栄養摂取状況を把握されている。	
33		47	○ 食事を楽しむことのできる支援 職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員は、介助の必要な方の隣に座り、嗜好や味付け、調理方法などについてうかがいながら楽しく食事をされていた。	食事を楽しむという観点から、食事時の姿勢や配膳、など食事一連の流れを通して楽しめるような支援について取り組まれてはどうか。
			2) 排泄					
34		48	○ 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			職員は、利用者の排泄の記録などでパターンを把握し、できるだけオムツを使用せず過ごせるように支援されている。	
35		50	○ 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			オムツ交換時には、居室の戸を閉めるなどプライバシーに配慮し対応されている。調査訪問時、職員が「もうすぐご飯なので行っておきませんか？」と利用者の隣でさりげなく声がけされていた。	
			3) 入浴					
36		53	○ 利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 利用者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			利用者の希望に合わせ支援されており、朝、入浴される方もいる。また、季節によって菖蒲湯やゆず湯でくつろいだ入浴を支援されている。	
			4) 整容					
37		56	○ 理美容院の利用支援 利用者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			利用者の希望を聴き取りながら、行きつけの美容院や訪問美容を利用されている。また、職員がカットされることもある。	

項目番号 外部 自己		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
38	57	○ブライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			お化粧をされている方や鮮やかな色目の洋服などを着ておられる方などもおられた。	日中、寝巻きで過ごされてるような方もおられた。ご本人の習慣となっているようであるが、リラックスできる服装などご本人とも相談しながら整容支援につなげていかれてはどうだろうか。
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 利用者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない利用者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			体操や散歩、買い物など日中の活動を通して安眠できるよう支援されている。また、眠りにくい方には暖かい飲み物や新聞、本などの提供や一緒にお話をするなど自然に眠れるように支えておられる。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			お金をご自身で管理されている方もおられる。また、買い物時に支払いをお任せするなど、個々の力量に合わせて生活の中でお金がかかわるような機会を作っておられる。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			お花の水やりやパズル、牛乳を買いに行ったり、新聞取りをされるなど利用者それぞれが、ホーム内で役割を持って生活できるような取組みが始まっている。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			看護師が常駐し、いつでも相談できる体制となっている。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			利用者が入院された場合は、早期退院できるよう医療機関やご家族と話し合いがなされている。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			利用者は、入居前からのかかりつけ医を定期的に受診されており必要に応じて検査などを行ない医師の指導を受けることができるようになっている。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			体操や散歩、買い物などで身体機能が維持向上できるように取り組まれている。また、手芸や習字、屋上でグランドゴルフなどもされている。	さらに、日常の暮らしの中で身体機能が維持向上できるような取り組みなども期待される。
		(7)利用者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、利用者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			時に起こる利用者同士のトラブルは、職員が間に入り、利用者同士の関係性を保てるよう話を聞きながら対応されている。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			朝夕食後に歯みがきを行えるよう支援しておられる。昼食後の口腔ケアは、ご本人に任せておられ、介助の必要な方などには職員がガーゼで口腔内を拭くようにされている。	
48	83	○服薬の支援 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			職員は、利用者一人ひとりの薬の目的を承知され、正しく服用できるよう支援されている。	
49	85	○緊急時の手当 利用者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			緊急時対応マニュアルがあり、職員は緊急時に心肺蘇生などの対応が行える。また今後、看護師の方を中心に、月1回、テーマを決めて勉強会を開催する予定もある。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			消毒液を使用し手洗いなどをされている。ペーパータオルやおしぼりなどが使用されている。	感染症全般についてさらに全ての職員で知識を深めていくためにも勉強会などを継続的に行うことも望まれる。
医療・健康支援 9項目中 計			9	0	0		
		3. 利用者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 利用者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			買い物や外食、散歩、また、喫茶店に立ち寄ったり、時には遠出をされるなど積極的に外出し楽しまれている。	さらに、ホームの立地条件を活かして、利用者が、近所で楽しめるような場所を増やしていかれてほしい。
地域生活 1項目中 計			1	0	0		

項目番号	項 目		できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
		4. 利用者と家族との交流支援					
52	94	○ 家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)		○		ご家族の来訪時には、ホームでゆっくりしていただけるよう声かけをされているが、ホームから足遠くっておられるようなご家族もあり、さらなる働きかけの工夫が望まれる。	さらに、ご家族がホームに「ちょっと立ち寄ってみよう」と思えるよう働きかけを工夫されていてほしい。また、ご本人との関係の構築の支援などにも積極的に取り組まれてたい。
家族との交流支援 1項目中 計			0	1	0		
		運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○ 責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。		○		法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任を踏まえて協働されている。	
54	97	○ 職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、利用者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。		○		管理者は、運営方法などについて、職員に意見を聞いている。	
55	101	○ 成年後見制度等の活用推進 利用(予定)者やその家族による、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用を推進している(制度概要等の説明、申立手続に関する専門機関や相談窓口の紹介等)。また、専門機関等は認知症高齢者の特性やグループホームをよく知っており、利用者や家族等並びにホームを支えていく協力体制が確保されている。		○		現在、制度を活用されている方はおられない。施設長が制度について理解され、相談を受けるようになっている。	さらに、今後、制度についての勉強会を行うなど、職員も知識を深めるような機会作りが望まれる。また、制度活用促進に向けてのさらなる取り組みが期待される。
		2. 職員の確保・育成					
56	102	○ 利用者の状態に応じた職員の確保 利用者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。		○		行事時や利用者の状態などにも合わせて職員の人員を増やすなど臨機応変にローテーションを組んでおられる。	さらに、職員の入れ替わりなどで、利用者、ご家族などにとって馴染みの関係となりにくいような配慮が望まれる。
57	104	○ 継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。		○		研修受講は積極的にされており、受講後は内容や感想をまとめた報告書を作成し、ミーティング時に発表するようになっている。また、職員は全員、他のグループホームで2日間研修を行うようにされている。	
58	106	○ ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)		○		業務上の悩みやストレスなどを職員間で話し合ったり、管理者に相談するなどして日常的に話すことができるようになっている。また、ピアガーデンやボウリング大会を行なうなど職員同士の親睦を深めておられる。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
59	108	○利用者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、利用者・家族の希望等)	○			事前の説明やご本人ご家族の意向を聴き取り、入居を検討するようになっている。	
60	110	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、利用者や家族等に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			退居にあたっては、ご家族などとも相談しながら納得のいく支援がなされている。	さらに、ご本人の状態のこともあり、ご家族は、どのくらいまでホームでお世話になれるのかということに不安に思われるような場合もある。今後のことなどについては、ご家族との話し合いの機会作りが望まれる。
		4. 衛生・安全管理					
61	113	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			ホーム内は掃除なども行き届いており清潔に保たれている。	
62	115	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬は事務所で管理されていた。また、注意の必要な物品などは保管場所を決め管理されている。	
63	117	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話あい、今後に活かす意義づけ等)	○			事故発生時、随時ミーティングが開催されている。またヒヤリハット記録も作成されているが、同じような事故が起こるようなこともある。	事故防止や再発防止などに向けて見守りに重点を置いて取り組まれているが、さらに事故原因の把握や対応についても改善の余地はないか探り、サービスの改善に向けて積極的に取り組まれてほしい。
内部の運営体制 11項目中 計			10	1	0		
		5. 情報の開示・提供					
64	119	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			調査訪問時、書類などの情報提供や管理者や職員の対応など積極的に行われた。	さらに、ホームで気付かれていることが、改善への最大の起点でもあるので、今後、地域との交流やご家族への対応などホームの質の向上に向けての発展的な取り組みが期待される。
		6. 相談・苦情への対応					
65	120	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、利用者及び家族等にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			重要事項説明書にホームの苦情窓口や担当を明記されており、入居時にご家族にも説明されているが、さらに、ご家族の心情を踏まえて第三者の窓口の明示などについても考慮されたい。	さらに、ご家族は、「お世話になっているので言いくい」という心情を持っていることが多く、相談できる窓口について繰り返し伝えていくような取り組みが望まれる。
情報・相談・苦情 2項目中 計			1	1	0		

項目番号 外部 自己	項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	7. ホームと家族との交流					
66	123 ○ 家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。		○		ご家族の来訪時に意見や要望を出していただくようにされているが、足遠くなっているご家族なども気軽に意見を出していたけような雰囲気作りの工夫が望まれる。	また、ご家族同士の交流の機会や、職員とご家族との関係作りなどへのさらなる取り組みが期待される。
67	124 ○ 家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、利用者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)		○		花みずき通信を作成し毎月ご本人の身体状態の報告や行事、外出などの様子を伝えているが、ホーム全体の取り組みやご家族の知りたい情報などさらに楽しみになるような情報提供への取組みなども期待される。	たとえば、職員の紹介やホームでの取り組みなどホーム独自で情報提供の工夫を重ねていかれてほしい。
68	127 ○ 利用者の金銭管理 利用者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族等と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			ホームでの預かり金の出納については、毎月、領収書と出納簿を送付し、ご家族に報告されている。	
ホームと家族との交流 3項目中 計		1	2	0		
	8. ホームと地域との交流					
69	128 ○ 市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			市と連絡をとっている。	
70	131 ○ 地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。		○		散歩や買い物の際の近所の方への挨拶などからゆっくりと関係性を深めておられるが、地域の方達がホームに立ち寄ってくれるようなことや、地域の方達と交流されるような機会は少なめである。	今後、ホームでは、町内のごみ拾いを行なうことなども計画中であり、そのようなことをきっかけに近所の方達とかかわりをさらに深めていかれることが期待される。
71	133 ○ 周辺施設等の理解・協力への働きかけ 利用者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			利用者が、飲食店や喫茶店、美容室など利用しながら生活できるよう働きかけを行なっている。	
72	134 ○ ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)		○		ホームの見学やボランティアなどの受け入れをされているが、地域に対してホームの機能を還元できるような取組みは特にされていない。	さらに、地域の中の公的事業所として、認知症ケアのノウハウを地域に還元できるような取組みが期待される。さらに地域に根ざしたホームを目指し積極的に取り組んでほしい。
ホームと地域との交流 4項目中 計		2	2	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		その他					
73	144	○火災・地震等の災害への対応 利用者や施設の状況を考慮に入れ、夜間も念頭においた防災対策を講じている。(災害発生時の職員、家族、その他関係機関(母体法人等)との連絡体制の確保、防災応援協定など地域との連携体制の確保、これらの連絡・連携体制を踏まえた災害に対応するための手引書等の作成、避難・誘導等定期的な訓練の実施等)		○		消防署の協力を得て消防訓練を行なっている。さらに、今後、地域との協力体制の確保や夜間時の対応、避難場所の確認など災害時の対応についてホーム全体で検討されてはどうか。	災害はいつ起こるか分からないことでもあり、職員数の少ない夜間を念頭においた防災対策や地域やご家族との連携などについても、この機会に職員で話し合ってみてはどうだろうか。また取り組みについてご家族などにもお知らせするような機会作りなども望まれる。
火災・地震等の災害への対応 1項目中 計			0	1	0		

* (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

(2)「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。